

## 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

### 学生の修学支援

学務課は学習一般に関する助言・指導を行い、学生課は学生生活・進路支援・学友会への助言等の学生指導全般を厚生補導の一環として積極的に応援しています。

生活科・保育科の各学年ではクラス担任制を取っており、学生の学習・生活上の助言・指導を行っています。クラス担任は学期の節目に行われる個別面談のほか、放課後や空き時間などにはホームルームに足を運び、クラス全体の状況把握や学生との会話の機会を積極的にもっています。個別面談等での内容によっては学務課・学生課と連携をとりながら学生一人ひとりに応じた支援もしています。

### 学生の生活支援

#### ○山の家研修

岩木山ふもとにある本学園の施設山の家「ヴィラ柴田」で、各科学年別に一泊二日の研修を行っています。

食事の準備から研修内容まで学生が中心になり計画し実施しているもので、教職員と寝食を共にしての研修は、学生・教職員間との親睦がさらに深まり、その後の学校生活を過ごす上での貴重な体験となっています。

#### ○奨学金

本学では、次の奨学金制度を取り扱っており、学資の支弁が困難と認められる学生は選考により適用を受けることができます。

##### (1) 学校法人柴田学園奨学金（貸与）

###### <規定>

- ①人物、学業とも優秀かつ身体強健であって、学資の支弁が困難と認められる者。
- ②学園の定める基準に合格した者。

###### <奨学金の額>

- 1) その年度の授業料に相当する金額。
- 2) その年度の授業料、教育充実費及び施設整備費に相当する金額の合計額

在学中に学資負担者の家計急変により、修学継続が困難となった学生には、「柴田学園家計急変奨学金」もあります。

(2) 日本学生支援機構奨学金

規定は日本学生支援機構による。

①第一種（無利子貸与）

自宅通学者： 月額 2万円、3万円、4万円、5万3千円の中から選択

自宅外通学者：月額 2万円、3万円、4万円、5万円、6万円の中から選択

※最高月額（下線付きの月額）は、家計支持者の収入が一定額以上の場合には利用できません。

②第二種（有利子貸与）

2万円～12万円（1万円単位）の中から選択

(3) 各市町村・各種団体の奨学金

規定は各市町村や各種団体による。

○課外活動

学友会活動

全学生で構成されている学友会があります。

学友会の役員と執行委員は、学生がより良い学生生活を送ることができるように、日々活動しています。行事の企画・運営・実施については、学生課と連絡を密にし、教職員助言のもとに連携を取り合いながら行っています。

学友会行事

学園祭

学園祭は全学生、教職員参加のもとに学生の自主性を尊重し日ごろの成果を発表する場であり、毎年10月の中旬以降の土、日曜日の2日間実施しています。

実施にあたっては、5月に学友会執行部と各科の代表学生、教職員とで構成する実行委員会が組織されます。実行委員会は11月まで5回開かれ、各科・各部の展示、発表などそれぞれの企画・運営を行い、また各界で活躍している人々を招いた講演会や演奏会、学生のオリジナルイベントも企画しています。

大正14年のバザーに始まった学園祭は、その後毎年趣向を凝らしながら現在にいたって、毎年、学生の友人・保護者・卒業生・高校生・大学生・地域の人々も参加し、大変賑わっています。

## クラブ活動

クラブ活動は、顧問（指導教員）のもとに文化部・体育部あわせて18の部と同好会で構成され、クラブによっては講師（コーチ）の指導を受けながら活動している部もあります。文化部は学園祭での展示・発表を中心に、体育部は東北地区大学体育大会の出場を目標とし、部活動を通して1・2年生の交流を深める機会となっています。

### クラブ名

#### ○文化部

華道部

茶道部

書道部

箏曲部

美術部

写真部

軽音楽部

心理研究部

栄養研究部

三味線部

食育研究部

ハンドメイド同好会

#### ○体育部

バレーボール部

バスケットボール部

バドミントン部

卓球部

ソフトテニス部

体操ダンス部

弓道部

## ○学生寄宿舎

本学の筋向いに192名収容可能な寄宿舎「秀芝寮」（女子寮）があり、寮では寮監が寮生と起居を共にして、健康管理や寮生の相談など生活全般を支援しています。食事は日曜日を除き3食付きで、本学出身の栄養士が献立作成、調理を担当して提供しています。

また寮では、寮生が企画する新寮生の歓迎会・クリスマス会・送別会の行事が催され、教員も招かれて楽しいひと時を過ごしています。学生は規則正しい生活の中、多くの友人を得て、卒業後も交流を続け「寮生活が貴重な経験となった」と多くの卒業生が語っています。

## ○ボランティア活動

各種団体から依頼されるボランティアは、学内に掲示し紹介をしています。希望者は以前より増えていて、土曜日の午後や日曜日、長期休暇中の授業がない期間を利用して参加しています。

## ○危機管理体制

学生証のQRコードを読み込むことで、学長からの緊急事態発生時の情報を入手できます。

## 進路支援

進路支援に当たっては、学生課が全体の計画を立案し、学生委員会（進路対策部会）・クラス担任と連携をとりながら行っています。

クラス担任は、入学時から卒業時まで、一人ひとりに面談をしながら進路先の相談に応じています。また、就職の支援として、職種別の担当者が配置され、学生がさらに細部にわたって相談できるシステムになっています。

就職率は26年度卒業生96.5%、27年度卒業生95.8%、28年度卒業生97.8%（いずれも5月現在）となっており、その中で、生活科、保育科それぞれ各科で取得した免許・資格を生かしての専門職に就いた学生は、ほぼ85%でした。特に保育科では、ほとんどの学生が取得した資格・免許を生かした仕事に就いています。

就職地域は青森県内が約65%を占めていますが、首都圏への進出も増えつつあります。

本学では毎年教員が就職先への訪問を行い、就職者の勤務状況の把握に努めていますが、人事担当者から「礼儀正しい」、「仕事ぶりが真面目である」、「素直で積極的である」と評価を得ており、本学の校訓並びに教育方針「教育即生活」が学生時代に充分浸透した結果と考えています。

卒業後に研究室を訪れる人が多いのも本学の特徴であると思われます。生活の様子を話されたり、中には仕事上での悩み、技能的知識のアドバイス等を受けている人もいて、教職員は励ましいろいろ助言して仕事に対する意欲を高めることもアフターケアの一つとして長年続いています。

本学では次のことを中心にして学生への進路を応援しています。

### ○就職オリエンテーション・ガイダンス（1年次、2年次）

1年次・・・本学の進路の傾向や社会人になるための心構えと準備についてオリエンテーションを行い、2年次の就職活動にむけて行動をおこすよう促す。

2年次・・・就職活動に向けて取り組む姿勢、取り組み方を具体的にガイダンスする。

### ○保護者へのガイダンス

入学時の保護者会と2年保護者会を通して、本学の取り組み・進路の状況、就職環境などを説明し、また個別に面談し、理解を図っています。

### ○編入学ガイダンス

全学生を対象に実施し、希望する学生には個別の相談に応じている。特に専門の受験科目の場合は、教科担当者が指導に当たっています。

○個人ごとの進路相談

クラス担任が随時行って、学生課と連携をとりながら、学生一人ひとりに対応しています。

○本学独自の資料（パンフレット）作成

・『卒業生の進路』は本学卒業生の進路先を掲載しています。就職オリエンテーション時に学生に配布して説明をしています。

・『就活ガイドブック』は就職活動の手順・履歴書の書き方・専門分野別試験内容と傾向・先輩の受験体験報告書等を掲載して全員に配付し、就職活動の基礎資料として利用されています。

○就職先への訪問

教職員が企業へ訪問して、人事担当者から本学卒業生の勤務状況を伺い、これからの学生指導の参考としています。

○各種検定試験・模擬試験の実施

各科での取得可能な免許・資格のほかに検定試験・模擬試験を実施しており、受験者にはさらに実力養成のチャンスとなっています。

実施日は土曜日または日曜日で、そのための事前指導も放課後随時実施しています。

・検定試験

文書デザイン検定、プレゼンテーション検定、情報処理技能検定、日本語ワープロ検定、秘書技能検定、食生活アドバイザー検定、日本漢字能力検定、栄養士実力認定試験

・模擬試験

短大用就職模擬試験、高卒程度公務員模擬試験、保育士就職模擬試験

## 心身の健康等の支援

毎年4月に学校保健安全法に基づく健康診断を全員に実施しています。

再検査を要すると判定された学生に対しては医療機関において精密検査を受けるように指導しており、その場合は保健室担当職員が直接学生に伝えて、対応に当たっています。

また、けが等の事故に備えて、学生は、学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険（公益財団法人日本国際教育支援協会）に全員加入しています。

正面玄関内にはAED（自動対外式除細動器）を設置し、迅速な対応ができるようになっています。

メンタル面のケアは、学生課が窓口となり、スクールカウンセラー（臨床心理士）を配置して、毎週1回希望する学生に対応しています。クラス担任と連携し、場合によっては保護者にも連絡をとりながらサポートする体制を整えています。

クラス担任は個人面談のほか、学校行事やさまざまな機会を通して学生と接する機会が多く、気軽に相談に来る学生が増えており、悩みの早期発見につながっているケースが度々あります。